

令和7年度第1回仁淀川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和7年10月22日（水）13:30～15:15

場所：土佐市複合文化施設「つな一で」3階大会議室

出席：委員24名中、22名が出席（代理出席6名含む）

議事：（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

（2）地域アクションプランについて

1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

2）仁淀川地域アクションプランの修正（予定項目）について

（3）産業成長戦略について

産業別若者所得向上検討チーム報告書について

議事（1）～（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし

（2）地域アクションプランについて

1）仁淀川地域アクションプランの進捗状況等について

2）仁淀川地域アクションプランの修正（予定項目）について

（No.21 さかわの地乳（おちち）ブランドの再構築による販路拡大）

（中山委員）

先ほどの説明の中では生乳の生産について言及がなかったと思うが、生産農家の数や乳牛の頭数について、今後、原料となる生乳がしっかり確保できるのかを伺いたい。

また、加工品について(株)YOKOBATAKE-iceはアイスが主体だと思うが、それ以外の加工品についても検討しているのか伺いたい。

（田中地域支援企画員（総括））

酪農家について、以前は4軒の酪農家が(有)吉本乳業に生乳を納入していたが、現在は3軒となっている。

加工品については、お菓子や渋谷食品(株)では、ソフトクリームなど様々な加工品に活用いただいている。また、地乳プロジェクト推進会議では新たな加工事業者にも参加していただき、プロジェクトを推進したいと考えているので、ご存じの方がいればご紹介いただきたい。

（中山委員）

お聞きしたかったのは、酪農家の戸数が3戸に減ったということで、乳牛の頭数にどうい
う変化があったのかということ。

また、これから地乳の活動を進めるにあたり、乳牛の頭数についてどのように考えているのかを伺いたい。

(中央家畜保健衛生所 下村所長)

酪農家の戸数について、3年ほど前に1戸が廃業したが、現在は3戸が酪農を続けており、乳牛の頭数に変化はない。

生乳についても、生産量のすべてを(有)吉本乳業に卸しているわけではなく、3分の2程度を(有)吉本乳業、残りの3分の1程度を他事業者に卸しているため、仮に、乳牛の頭数が多少減っても(有)吉本乳業に供給する分の生乳は確保できると考えている。

(No. 33 日高村能津地区における交流人口の拡大と地域の活性化)

(松岡委員)

高知 FORESTVISION(株)では、高知県産の豊富な原料を活用して90種類の精油の蒸留などを行っている。常圧水蒸気蒸留法という方法によって電気を使わない、カーボンニュートラルの実現だけでなく、原料の栽培によるカーボンポジティブや蒸留後の残渣を肥料化することによって地域循環もしている。

県内全市町村の香りづくりにも挑戦しており、現在は14市町村の香りができている。

売上は目標を達成していないが、県内の資源を生かして精油づくりに取り組んでおり、PR等、県として、今後もできる限りのご支援をいただきたい。

(福島地域産業振興監)

これまでどおり、支援させていただく。

(No. 15 日高村におけるクラフトビール工房を軸にした交流人口の拡大と地域の活性化)

(松岡委員)

「No. 15 日高村におけるクラフトビール工房を軸にした交流人口の拡大と地域の活性化」については、明後日から施設整備に係る工事が始まる。

こちらの商品は、スコットランドのビールの伝統的な製法を特徴としており、土佐茶やショウガなど、日高村や高知県の地場産品を副原料として活用したビールを作る予定になっている。

醸造所に併設するスコティッシュパブはスコットランドのパブを再現したもので、トマト、ハラペーニョ、ブント、イチゴなどの地域産の旬の農産物を生かした、季節や収穫量に合わせたパブ限定の小ロットで多種多様なビールを提供する予定である。

また、残渣のモルト粕については、錦山の(株)霧山茶園と協力して堆肥化、還元、循環をさせる考えも持っており、日高村としてはさまざまな取り組みに大いに期待している。

令和8年度に営業を開始する予定となっているため、皆さんにもご紹介をしておきたいと思ひ発言させていただいた。

(No. 21 さかわの地乳（ぢちち）ブランドの再構築による販路拡大）

（片岡（雄）委員）

先ほど中山委員から佐川の地乳について質問をいただいたが、大変おいしく、佐川町の学校給食にはすべて吉本牛乳を使っている。若干高いが、味はすごく良いので、是非、飲んでいただきたい。

（株）YOKOBATAKE-ice は、現工場ではなかなか新商品の開発ができないということで、昨年度には新しい工場の建設にあたり、県に産振補助金の申請をしたが採択に至らなかった。

銀行の融資も決まっており、頑張っているのでぜひ採択いただけるよう、地元の事業者をつぶさないようお願いをしたい。

また、1月24日（土）に、まきのさんの道の駅・佐川で、5年ぶりの「地乳まつり」が開催されるので、是非、ご参加いただければと思っている。

酪農家も4戸から3戸になり、物価高騰で飼料等の価格も上がっている。町としても補助をしているが、なかなか厳しい経営状況となっており、県から国に申請し、助成いただけるようお願いしたい。

(No. 5 越知町における食用山椒の産地振興)

（國貞氏（小田委員代理））

山椒については、ここ数年、取引価格が高値で推移しており、生産者の生産意欲向上につながっていると思う。山椒の産地振興については令和6年度から農業改良普及所の重点課題に位置付けていただいております、関係者と連携しながら食用・薬用山椒の産地拡大に努めているところである。

山椒は軽量で栽培管理も比較的手がかからず、町内でも120戸ほどの農家が栽培をしているが、経営規模によっては、収穫に10人ほどの作業員が必要な上に、収穫時期が重なっているため、労働力の確保に従前から大変苦勞をしていた。

収穫ができなくなれば、規模縮小にもつながってしまうということで、労働力の確保対策として、農作業ヘルパー制度に取り組んでおり、昨年11月に無料職業紹介所を開設した。今年の2月から町広報ホームページ、折り込み新聞掲載など幅広く募集をかけ、現在52名がヘルパー登録、23名の農家が求人登録をしているところである。ヘルパーで曜日を問わず勤務できる方の割合は約3分の1、その他、土日のみや週3日などが多い。登録者のうち7割が近隣町村からの登録だが、高知市や南国市などからも登録があり、実際にヘルパーとして勤務していただいている。9月末までのマッチング数は38件、このうちサンショウの収穫は27件だった。その他、お茶の収穫、ショウガのネット張り等の求人や応募もあった。9月にマッチング済みのヘルパーにアンケートを行い、10月5日にはヘルパーを対象に作業のお礼も兼ねて、「ありがとう会」として昼食を取りながら、今後の運営改善につなげるための意見交換を行った。農家の方からは、大変助かったという感謝の声を多くいただきヘルパーの皆さま

んからは、慣れない作業が多く心配をしていたが、農家の方が優しく接してくれ、大変満足したというお声もいただいている。

これまで運営面で大きなトラブルはないが、アンケートや意見交換でいろいろ反省すべき点をご指摘いただいたため、今後の運営改善に生かすために、早急に対応可能な案件については改善していく必要があると感じている。取り組みを始めたばかりだが、これまでなかった労働力がゼロベースから確保できたということで、一定の効果があったと感じている。今週末ごろから、ショウガの収穫も始まるが、引き続きヘルパーの方にお世話になるようになっている。今後もぜひ登録者数を増やしていきたいと思っているので、また委員の皆さんにも、適当な方がいれば、ご紹介をいただきたい。

(No. 27 いの町本川地区での山岳観光の推進)

(濱田氏 (池田委員代理))

先ほど説明いただいたが、S評価という非常に高い評価をいただいている。

一方で道の駅「木の香」については、指定管理者が撤退をして、現在は別の指定管理者が運営に携わっている。S評価はいただいているが、引き続き、利用者増に向けていの町としても取り組んでいく必要があると考えている。

昨年度この地域がテレビのBS番組で放送され、知名度がかなり上がっている。

UFOラインの維持管理のための、ふるさと納税を活用したクラウドファンディングでは、目標を上回って1,000万円弱の支援をいただいた。分析をすると、全国各地からご寄付いただいております、9月末のふるさと納税の駆け込み需要もあるが、非常に好調となっている。

町としても本川地区の山岳観光はいの町のPRとなる重要な拠点だと考えており、引き続き力を入れて、維持管理などもしっかり行っていきたいと考えている。

(No. 18 仁淀川町の基幹産業である茶の6次産業化の推進)

(下久保氏 (片岡 (信) 委員代理))

6次産業化に向けた直接的な取り組みではないが、茶葉の価格の低迷が顕著であり、今ある茶園をどう維持していくかということは、併せて継続的に取り組んでいかなければならない。

現在、池川茶業組合が仁淀川町岩柄地区において、県の高吾農業改良普及所、茶業試験場の協力を得て、お茶の有機栽培に向けて試験栽培を実施している。

また、8月29日から31日までの3日間、県の茶業試験場と(株)池川茶園が共にタイのバンコク日本博2025へ出展をし、仁淀川町の茶業、主に煎茶であるが、こちらのPRを行ってきた。現地では水出し茶の試飲や販売を行い、タイ市場における煎茶販売の可能性を見出すことができたという報告を受けている。

(No. 20 仁淀川町の町内資源を活用したジン・ウイスキーのブランド化による地域の活性化)

(下久保氏 (片岡 (信) 委員代理))

事業実施主体である高知ウイスキー(株)の代表者が昨年4月から地域おこし協力隊員として、仁淀川町で活動をしている。

着任前は県外の蒸留所でジン・ウイスキーの製造に携わっており、開発した商品は世界のコンテストで金賞に選ばれるなど、その他にもさまざまな受賞歴がある。

仁淀川町に来られた時から、町内のお茶やユズを使ったジンの開発や企業との取り引きに取り組んでおり、自社によるジン・ウイスキーの製造販売の実現に向けて着実に進んでいる。

また、施設整備予定地は、旧池川町の中心部周辺に位置しており、サップ・カヌーのアクティビティが盛んである宮崎の河原が近くにあり、飲食店が何軒か新たに開業するなど、町における稼げる観光の中心地として育ってきている。

今後、宿泊施設の整備が進めば、アルコール類の需要も高まり、地の物を提供できたら、さらに収益につながるものと考えている。

私もジンを飲ませていただいたが、非常に飲み口もよく気持ち良く酔えるので、是非、皆さんも機会があれば手に取って、飲んでいただきたい。

(松木委員)

ご存じの方もいるかと思うが、「仁淀ブルー」という商標登録は、日本酒以外のほぼすべてをいの町商工会が更新し、所有している。これだけ「仁淀ブルー」という言葉が日本中に広まってきたことから、無料がかまわないので、新商品などいろいろな場面で「仁淀ブルー」という言葉を使っていたきたい。

(3) 産業成長戦略について

産業別若者所得向上検討チーム報告書について

(福島地域産業振興監)

所得向上については異論はない。日本国中が資材費や光熱水費、また人件費の高騰等によって価格転嫁をしなければならなくなっていると思う。理屈上は価格転嫁をする必要があると分かっている、価格転嫁にも限界があり、資材費等の高騰分をそのまま乗せてしまうと売れなくなるという話をよく聞く。

例えば人件費を上げるために誰かを辞めさせなければならない状況や、黒字倒産のようになるのは最悪の形だと思う。そういったことを防ぐためにも、この検討チームとは別の状況だとは思いますが、国でも考えることだと思うが、県でも検討していることがあれば紹介いただきたい。県でできなければ、国に政策提言をしていかなければならないと思う。もし、知見等があれば教えていただきたい。

(産業政策課 松木チーフ)

これから経済対策のメニューなどが出てくると思う。その中でどうしていくかという議論かと思うが、まだ詳細は分からない。

価格転嫁に関しては、やはり事業者、特に仕入れ先になるところ、元になるところの理解が必要なので、今はパートナーシップ構築宣言といった形で、取り組んでいくことになるか

と思う。

他方で、経済面での支援というのは国の経済対策をにらみながら取り組んでいかざるをえないと考えている。

(板原座長)

新しい内閣ができ、物価高騰対策をはじめこれからの経済対策についての発言を聞いていると、スピード感を持って取り組むということは謳い文句だと思っている。なるべく早く、県から私たちの要望を伝えていただくようお願いしたい。

特に人口減少対策が喫緊の課題であり、やはり仕事がないと戻れないという状況の改善が重要である。今後、情報が出てくると思うので、国の動向について情報収集をして、皆に共有し、参考になる事例があれば紹介いただければと思う。

(以上)